

大串崎地区 ベースライン CO2吸収量 説明資料

かつて、上五島町漁協の周辺海域には多年生、1年生の大型海藻類からなる藻場が豊富に分布し、これを餌とするアワビやサザエが重要な漁業資源であった。しかし、2000年以降になると磯根資源の餌場であった豊かな藻場は、磯焼け現象により徐々に消失していった。とりわけ、クロメやホンダワラ等の多年生の大型海藻はほとんど無くなり、1年生のホンダワラ類が湾奥内でわずかに見られる程度に衰退した。

2002年（平成14年）、大串崎地区海域〔活動区〕にはヒジキ、シワヤハズ、ウスバノコギリモク、ヤツマタモク等の植生が見られた。しかし、今回の対象藻類であるアミジグサについては、当時は植生が見られない。また、対岸である道士井地区（対照区）には、ヒジキ、ヤツマタモク、ウミトミトラノオ等の植生が見られたがアミジグサは見られていない。（資料①）

2015年から現在までに継続してウニ類の駆除活動を行っている大串崎南海域海域（図1参照）では、2020年頃からこれまで見られなかったアミジグサが出現し始め現在ではアミジグサの繁茂に至っている。（資料②）

これらのことから、かつて大串崎海域にはアミジグサ以外の海藻は生えており、アミジグサは見られなかったと推定できることから、ベースラインをゼロとした。なお、当海域でのアミジグサの高さが10-34cmであり、10cmを閾値として解析を行っているため、小型藻類はベースラインの吸収量から除外される。さらに、かつて上五島海域全域で生えていた多年生、1年生の大型海藻類は、現在、対象海域及び非対象海域の両海域においてほとんど無くなっており、この消失は自然変動によって起こった事象であることから、当該活動による人的影響は無視できる。

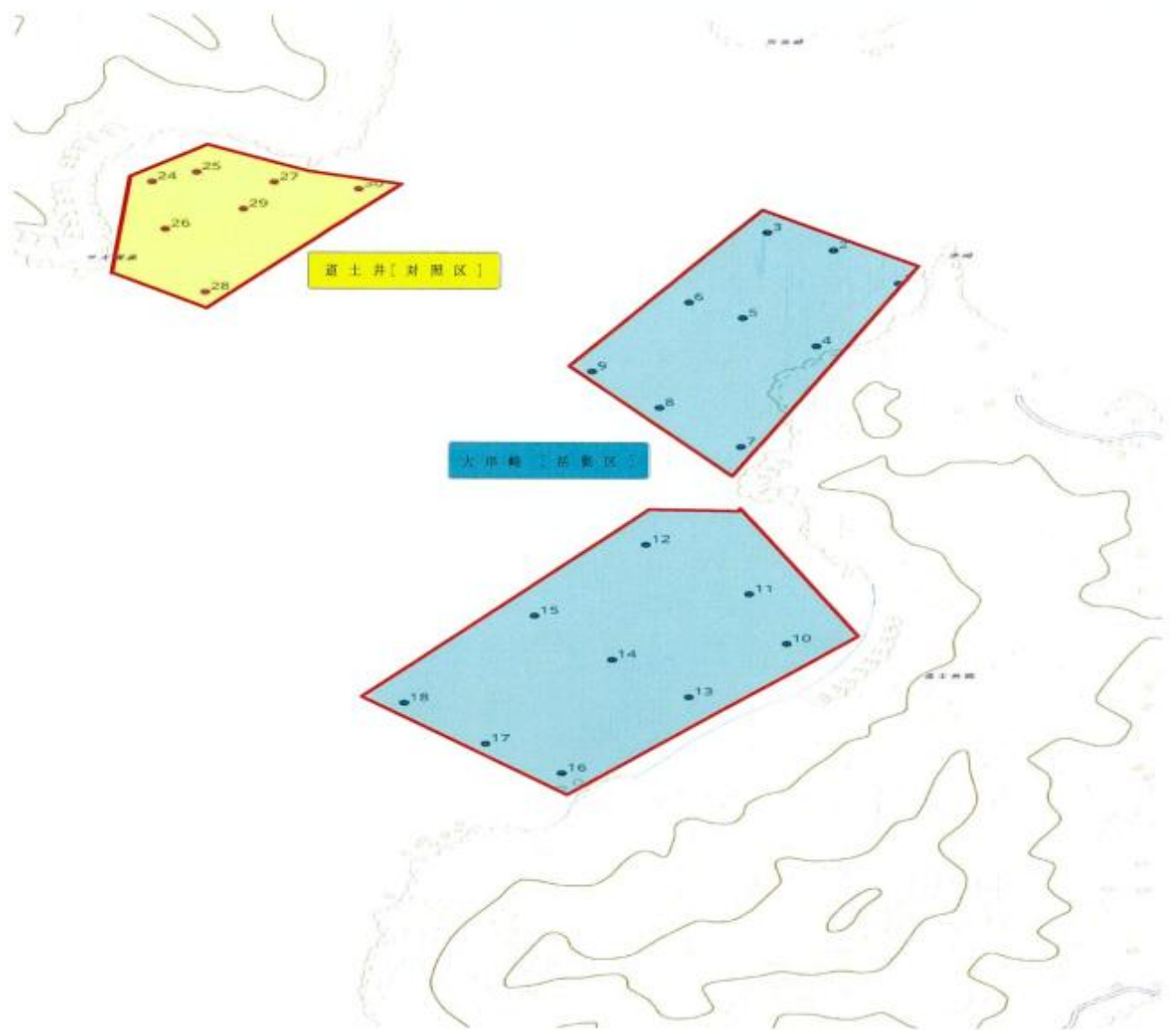
一方、道士井地区（対照区）は食害生物の駆除活動を行っておらず、今年6月に実施したMXによる探査によると海藻類の被覆は全域でゼロに近く、コドラード〔Go pro撮影〕による海底の観測ではアミジグサなどの小型褐藻類も見られないため、プロジェクトを実施していない海域では、CO2吸収量の増加していないと推測される。（資料③）

【参考資料】

資料① 平成14年度(2002年)上五島町漁場台帳報告書（P3～18）

資料② (2015～2023年)上五島・大串崎地先 潜水駆除写真 (P19～23)

資料③ 大串崎地区（活動区）の対照区である道士井〔増殖礁予定地〕の海底の状況(P24～26)



活動区：大串崎地区（南地区＋北地区） 2015年～現在：ウニ類駆除

対照区：道土井地区〔増殖礁予定地〕 ウニ駆除未実施

参考① 平成 14 年度(2002 年)上五島町漁場台帳報告書

・磯根漁場環境の潜水調査 (※報告書 P5)

調査方法は、ライントランセクト法により 0～100m 測線上に 10m ピッチで写真撮影、状況観察 (水深、底質、海藻、動物) を行った。また、1 測線当り 2 箇所 (0.5×0.5m) を 2 箇所行い海藻種類・量、動植物種類・量を測定した。

今回の対象海域である上五島地区大串崎地先は測線 31 となる。

測線 31 における海藻種類は、緑藻類 1 種、褐藻類 7 種、紅藻類 15 種の計 23 種が見られ、大型藻類は、ホンダワラ類のヒジキ、ウスバノコギリモク、ヨレモクの 3 種が出現し、アラメ類は出現していない。また、ヒジキは基点周辺の岩盤の一部で疎生、ヨレモクは基点から 30m 間で点生～極く点生、ウスバノコギリモクは 30m 付近から 55m 付近間で点生であり、小型藻類は 20 種が出現し、有節サンゴモやキントキがやや目立っていたと報告されている。(※P9 表 3.4.15 測線別概況 (測線 31) 参照)

また、海藻類採取結果表から、測線 31 で採取した藻類は、褐藻類のシワヤハズ、ウスバノコギリモク、ヨレモク、紅藻類のソデガラミ、有節サンゴモ類が見られるが、今回の対象海藻であるアミジグサは全く無かったと判断できる。

近隣の周辺海域における海藻種類については、測線 30 及び測線 32 を参考とする。

測線 30 における海藻種類は、緑藻類 2 種、褐藻類 11 種、紅藻類 2 種の計 15 種が見られ、大型藻類は、ホンダワラ類のヒジキ、アカモク、ノコギリモク、ヤツマタモク、ウスバノコギリモク、ウミトラノオの 6 種が出現し、アラメ類は出現していない。(※P8 表 3.4.14 測線別概況 (測線 30) 参照)

測線 32 における海藻種類は、緑藻類 2 種、褐藻類 6 種、紅藻類 1 種の計 9 種が見られ、大型藻類は、ホンダワラ類のヒジキ、アカモク、ヤツマタモク、ウミトラノオの 4 種が出現し、アラメ類は出現していない。

次に、海藻類採取結果表から、測線 30 で採取した藻類は、褐藻類のウミウチワ、イシゲ、ヒジキ、ヤツマタモク、ウミトラノオのみ。測線 32 で採取した藻類は、緑藻類のアナアオサ、褐藻類のウミウチワ、イシゲ、フクロノリ、ヒジキ、ヤツマタモク、ウミトラノオであった。

以上のことから、近隣の周辺海域においても、アミジグサは全く無かったと判断した。

長水開協14-19

平成14年度 漁場台帳作成業務

報 告 書

平成 15 年 3 月

実施機関 上 五 島 町
調査機関 (社) 長崎県水産開発協会

3. 磯根漁場環境

3.1 潜水調査

1) 調査方法

(1) 海底地形、底質及び藻場

調査水域の海底地形、底質、底生動物及び藻場分布は、図3.1に示す100m測線16本の潜水観察により把握した。また、串島の東側に築いそ事業で造成されているH型魚礁漁場と串島野首ノ鼻の東側に地先型増殖場で造成されている投石漁場についても潜水観察を行った。

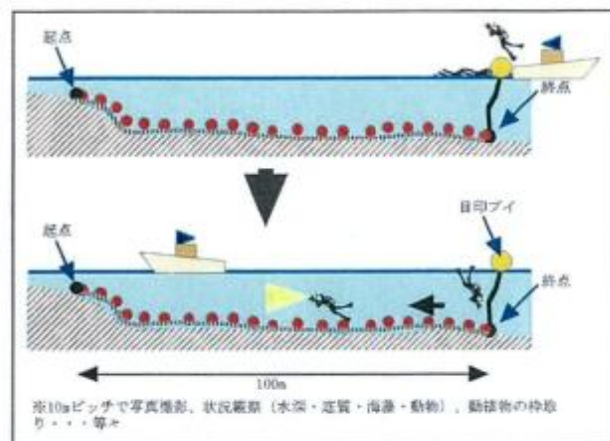
測線調査については、下図に示すように調査ラインを汀線から沖合方向に設置し、これに沿ってスキューバ潜水により水深、底質、海藻、アワビ類・サザエ、底生動物、魚類の分布等についてを観察し、10m毎に写真撮影を行った。海藻の被度区分、底質については表3.1、3.2の区分に従った。

(2) 採取調査

測線1～16及び投石漁場については、海藻、底生動物、アワビ類・サザエの採取を行った。採取調査の種類別採取面積は表3.3に示すとおりである。

(3) 調査結果の整理

調査箇所別に観察結果を表にまとめて示すとともに、各測線及び築いそ漁場については海底地形と底質及び藻類出現結果を断面図として作成した。



潜水測線調査要領図

表3.1 海藻の被度区分

区 分	基 準
濃 生	植生により海底面がほとんどみえない
密 生	海底面より植生の方が多い
疎 生	植生より海底面の方が多い
点 生	植生はまばらである

表3.2 底質の類型区分

底 質	区分の基準
岩 盤	—
転 石	等身大以上
巨 礫	等身大～大人の頭
大礫	大人の頭～こぶし大
小礫	こぶし大～米粒大
砂	米粒大～粒子が認められる程度
泥	粒子が認められない

表3.3 測線調査における枠取り調査面積と点数

種 類	面積	点数
海 藻	0.25㎡	2
アワビ類・サザエ	20 ㎡	1
藻食性動物（ウニ、巻貝類など）	1 ㎡	1
ウニ類（目視計数）	10 ㎡	1

※ 測線1～15はアワビ類・サザエのみ

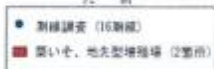


圖3.1 調查測線位置圖

表3.4.14 測線別概況 (測線 30)


項目	状 況	図表類
海底状況	測線は、別当崎西側の水深+0.6mに基点を設定し、西南西方向に100m敷設した。 海底は、基点より10m付近まで緩傾斜で、それより沖合は約1/5の傾斜で落ち込み、100m地点の水深は18.3mであった。底質は、大礫主体の礫帯が基点から20m地点まで続き、20m地点より小礫が増加した。25m地点からは大礫主体の砂礫帯となり、60m付近より砂帯へと移行した。	図3.2.1
海藻	海藻は、緑藻類2種、褐藻類11種、紅藻類2種の計15種が出現した。採取調査による現存量は岸側で196g/m ² 、沖側で124g/m ² であった。 大型藻類は、ホンダワラ類のヒジキ、アカモク、ノコギリモク、ヤツマタモク、ウスバノコギリモク、ウミトラノオの6種が出現し、アラメ類は出現しなかった。植生被度は、ヒジキとウミトラノオが浅所で稀生～点生し、他の種は点生～極く点生であった。小型藻類は9種が出現し、ウミウチワが多少目立っていた。	表3.6 表3.9
サザエ類	アサヒ類：出現しなかった。 サザエ：採取調査では基点から20～30m間で20m ² 当たり殻高57.5mmと60.0mmのサザエ2個が出現し、生息密度は0.10個/m ² であった。	表3.7
藻動物性	貝類：大礫・小礫帯では大型のギンタカハマガイが多く、この他コンダカガンガラが観察された。 ウニ類：ムラサキウニは基点から30m間で3個体/m ² 程度生息していたが、アカウニ、バフンウニは観察されなかった。ガンガゼ類は浅所でみられ、多い所で3個/m ² であった。 その他：基点付近の潮間帯では、ケガキ等のカキ類が観察された。	表3.8
魚類	魚類は、6科8種が出現した。 有用種：カサゴが1尾みられた。 藻食種：観察されなかった。 その他：ヒメジ、ソラスズメダイ、ホシササノハベラ、イトヒキベラ、ハナハゼ、トラギス等が観察された。	表3.10
測線位置図		

表3.4.15 測線別概況 (測線 31)


項目	状 況	図表類
海底状況	測線は、赤崎と大串塔の中央付近で水深+1.0mの岩礁上に基点を設定し、北西方向へ100m敷設した。基点付近は、洗岩が連なる荒い地形であり、海底は、基点から岩盤が水深3mまで急に落ち込み、それより沖合は約1/8のやや緩やかな傾斜で、底質は巨礫、巨礫・大礫・砂、砂・大礫を経て80m付近で砂へと移行した。基点から100m地点の水深は15.1mであった。	図3.2.1
海藻	海藻は、緑藻類1種、褐藻類7種、紅藻類15種の計23種が出現した。採取調査による現存量は岸側で260 g/m ² 、沖側で144 g/m ² であった。 大型藻類は、ホンダワラ類のヒジキ、ウスバノコギリモク、ヨレモクの3種が出現し、アラメ類は出現しなかった。ヒジキは基点周辺の岩盤の一部で疎生、ヨレモクは基点から30m間で点生～稀く点生、ウスバノコギリモクは30m付近から55m付近間で点生であった。小型藻類は20種が出現し、有節サンゴモヤキントキがやや目立っていた。	表3.6 表3.9
サザエ類	アワビ類：出現しなかった。 サザエ：採取調査では、基点から30～40m間で20m ² 当たり殻高53.5～62.0mmのサザエ3個が出現し、生息密度は0.15個/m ² であった。	表3.7
藻食性動物等	貝類：ギンタカハマガイとウラウスガイが散見された。 ウニ類：ムラサキウニが浅所でやや多く、最も多い所で8個/m ² 出現し、アカウニも少数観察された。ガンガゼ類は多い所で3個/m ² 出現した。	表3.8
魚類	魚類は、9科17種が出現した。 有用種：マダイ(幼魚)とカワハギが少数みられた。 底食種：観察されなかった。 その他：ソラスズメダイとホンベラが多く、これらの他コスジイシモチ、クマノミ、スズメダイ、クツワハゼ、コウライトラギス、ヨソギ等も観察された。	表3.10
測線位置図		

表3.4.16 測線別概況 (測線32)


項目	状 況	図表類
海底状況	測線は、道土井湾の東海岸中央にある防波堤の南側で、水深+1.0mに基点を設定し、西南西方向に100m敷設した。 海岸付近には洗岩が多数みられた。海底は、巨礫主体の礫帯が基点から15m地点まで続き、岩盤・巨礫帯を経て、大礫主体の砂礫帯となった。基点より75m付近で砂へと移行し、100m地点の水深は11.5mであった。	図3.2.1
海藻	海藻は、緑藻類2種、褐藻類6種、紅藻類1種の計9種が出現した。採取調査による現存量は岸側で1,636 g/m ² 、沖側で860 g/m ² であった。 大型藻類は、ホンダワラ類のヒジキ、アカモク、ヤツマタモク、ウミトラノオの4種が出現し、アラメ類は出現しなかった。いずれも0m以浅の潮間帯でのみ生育しており、ヒジキは疎生～点生、ウミトラノオが点生、アカモクとヤツマタモクは極く点生であった。小型藻類は5種が出現し、アナアオサが目立つ程度であった。	表3.6 表3.9
サアザエビ類	アワビ類：出現しなかった。 サザエ：採取調査では、基点から10～20m間で20m ² 当り殻高66.5mmと68.0mmのサザエ2個が出現し、生息密度は0.10個/m ² であった。	表3.7
藻食性動物等	貝類：コシダカガンガラとレイシガイが多く、ギンタカハマガイは散見された。 ウニ類：ムラサキウニが多い所で5個体/m ² みられ、アカウニとバフンウニは少なかった。ガンガゼ類は深所で多く、最も多い所で17個/m ² の個集がみられた。	表3.8
魚類	魚類は、10科20種が出現した。 有用種：イサキとカタクチイワシが群れをなし、カワハギも少数観察された。 藻食種：観察されなかった。 その他：アカエソ、キンセンイシモチ等のテンジクダイ類、ホンベラ等のベラ類、ハナハゼ、ヨゾギ、ハリセンボン等が出現した。	表3.10
測線位置図		

表3.6.2 海藻類粹取り結果

(特設) 面積: 50cm × 50cm

單位：重量%

項目	測 緯		25		30		31		32		33		34	
	基点からの距離 (m)		0	10	0	20	10	40	0	10	0	20	30	50
	高	深 (m)	<0.3	1.0	<0.6	3.3	3.0	6.1	<1.0	<0.3	0.6	3.3	6.0	1.5
地名	定	量	白濁	粘土	砂・大礫	砂・砂	砂	砂・砂	粘土	粘土	N型	N型	粘土	粘土
紅蓮湖 アオサ目	アオサ科	アナオサ												
イワシ目	イワシ科	タカシロ												
紅蓮湖 アミシ目	アミシ科	ヤハズ												
		シロヤハズ												
		アミシ												
		フタエサ												
		サナダ												
		ウミナ												
		イシ												
ナガサキ目	イシ科	イシ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
セバ目	セバ科	セバ												
		イシ												
		アカ												
		ノコギリ												
		トグ												
		ツツ												
		ウスバノコ												
		ミシ												
		ウミトラノ												
		エノネ												
紅蓮湖 ウミシロ目	ウミシロ科	ウミシロ												
		シロ												
		シロ												
		シロ												
紅蓮湖 サンゴ目	サンゴ科	サンゴ												
		サンゴ												
		サンゴ												
		サンゴ												
		サンゴ												
サンゴ目	サンゴ科	サンゴ												
		サンゴ												
		サンゴ												
		サンゴ												
		サンゴ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
		オサノ												
オサノ目	オサノ科	オサノ												

注) ・記号は2g未満を示し、重量算計には含まれない。括弧内の数字は株数を示す。

められた。小型藻類は、両測線でアミジグサ類、有節サンゴモがやや多くみられた。

(3) 底生動物

① アワビ類・サザエ

アワビ類は出現がみられなかった。

サザエは両測線とも3個が出現し、生息密度は0.15個/㎡であった。

② ウニ類

ガンガゼ類は両測線の深所でやや多くみられ、多いところで3～5個/㎡であった。また、ムラサキウニは浅所でやや多く、このほかアカウニ、バフンウニ、ラッパウニがみられた。

③ 貝類

ギンタカハマガイ、ウラウスガイが両測線の共通種で、このほかにヒメクボガイ、オオコシダカガンガラがみられた。

④ 魚類

魚類は15～17種が出現し、有用種ではカワハギ、カタクチイワシ、イシダイ、メバルが観察された。このほかにクロホシイシモチやスズメダイ類、ベラ類等が多く観察された。

藻食性魚類ではメジナが測線29でやや多く観察されたほか、ブダイ類が少量観察された程度で少なかった。

5) 道土井湾水域 (測線30, 31, 32)

(1) 海底地形・底質

海岸付近からの岩盤の張り出しは狭小で、基点付近から60～70m地点にかけては転石、礫帯となっており、これより沖は砂地に移行している。水深は測線30が最も急傾斜で100m地点で約18m、道土井湾口に位置する測線32では約11mであった。

(2) 植生

海藻は9～23種が出現し、瀬戸に面した測線31で最も多かった。大型藻類ではヒジキ、アカモク、ヤツマタモクなど7種が出現し、基点付近ではヒジキの密生域もみられた。小型藻類は、ウミウチワが共通して出現し、このほかにアナアオサ、キントキ、ユカリ、カバノリがみられた。

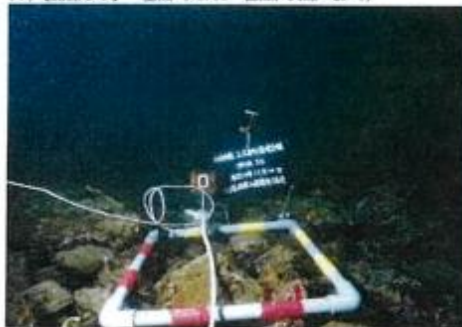
(3) 底生動物

① アワビ類・サザエ

アワビ類は出現がみられなかった。

サザエは2～3個が出現し、生息密度は0.10～0.15個/㎡であった。

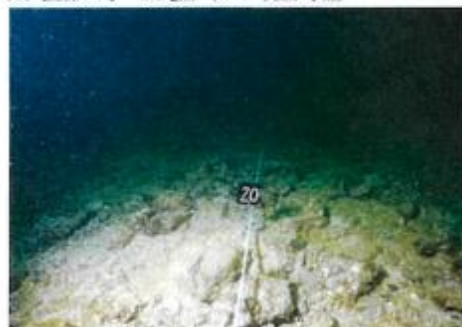
(1)【測線30】 基点 (+0.6m 巨礫、大礫 ヒシキ)



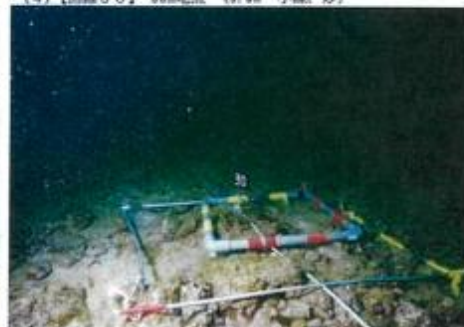
(2)【測線30】 10m地点 (+0.3m 巨礫、大礫)



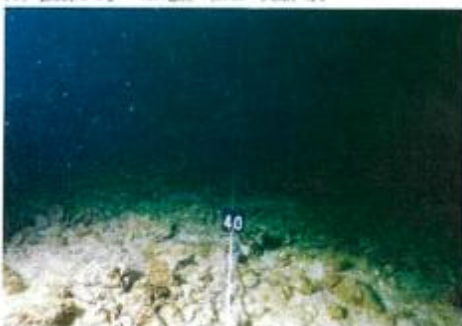
(3)【測線30】 20m地点 (1.7m 大礫、小礫)



(4)【測線30】 30m地点 (3.3m 小礫、砂)



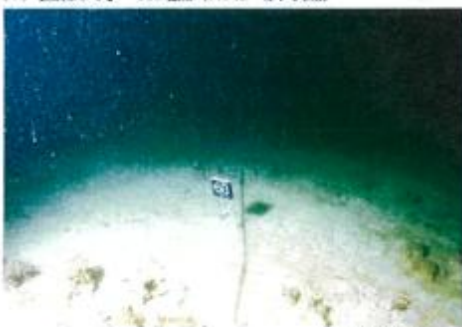
(5)【測線30】 40m地点 (5.5m 大礫、砂)



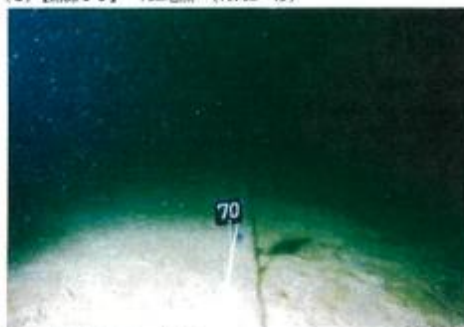
(6)【測線30】 50m地点 (8.2m 大礫、砂)



(7)【測線30】 60m地点 (11.4m 砂、大礫)



(8)【測線30】 70m地点 (13.6m 砂)

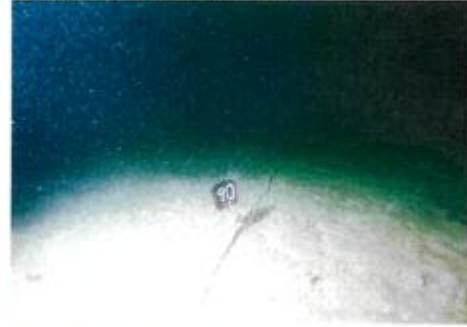


記録写真-27 測線30-(1)

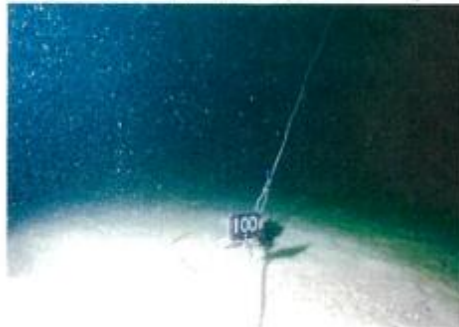
(1) 【測線30】 80m地点 (15.1m 砂)



(2) 【測線30】 90m地点 (17.2m 砂)



(3) 【測線30】 100m地点 (18.3m 砂)



(4) 【測線30】 (少トサナ)



(5) 【測線30】 (採取写真 海藻2ヶ所 動物・有用1ヶ所)

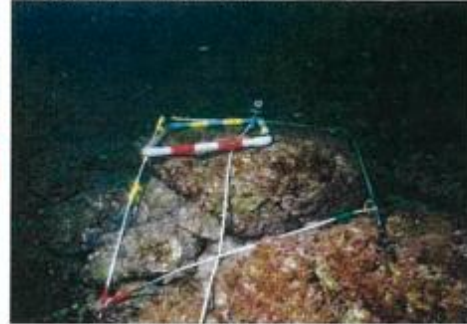


記録写真-28 測線30-(2)

(1) 【測線31】 基点 (41.0m 岩盤 ヒノキ、有節サゴシ)



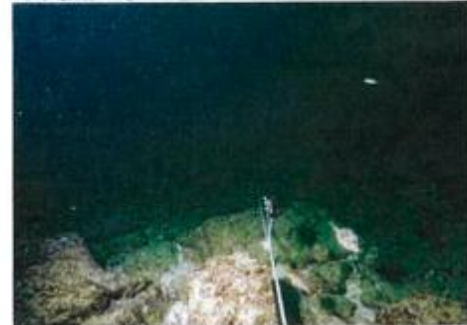
(2) 【測線31】 10m地点 (3.0m 巨礫 砂)



(3) 【測線31】 20m地点 (5.0m 巨礫 砂)



(4) 【測線31】 30m地点 (7.1m 巨礫、砂 204°、204°25')



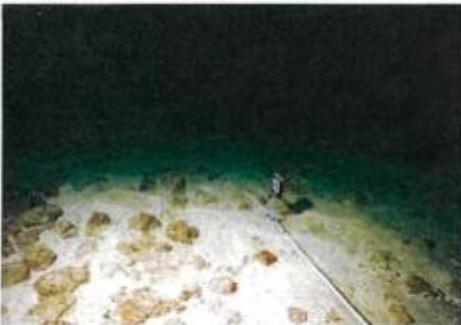
(5) 【測線31】 40m地点 (8.1m 巨礫、砂)



(6) 【測線31】 50m地点 (9.9m 巨礫、砂)



(7) 【測線31】 60m地点 (11.3m 大礫、砂)



(8) 【測線31】 70m地点 (12.7m地点 砂、大礫)



記録写真-29 測線31-(1)

(1) 【測線 3-1】 80m地点 (12.7m 砂)



(2) 【測線 3-1】 90m地点 (14.4m 砂)



(3) 【測線 3-1】 100m地点 (15.1m 砂)



(4) 【測線 3-1】 (イソノチドリ類、コシノイシモチ)

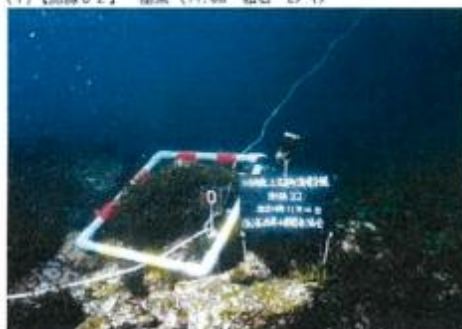


(5) 【測線 3-1】 (採取写真 海藻 2ヶ所 動物 有用 1ヶ所)



記録写真-30 測線 3-1-(2)

(1)【測線3-2】 基点 (+1.0m 転石 ヒジキ)



(2)【測線3-2】 10m地点 (+9.2m 巨藻、大藻 ヒジキ)



(3)【測線3-2】 20m地点 (1.7m 巨藻、砂 ヒジキ)



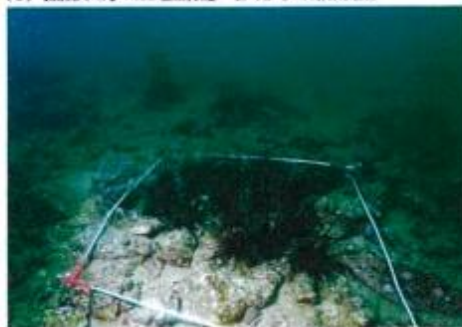
(4)【測線3-2】 25m地点 (ヒジキ)



(5)【測線3-2】 30m地点 (3.3m 大藻、砂)



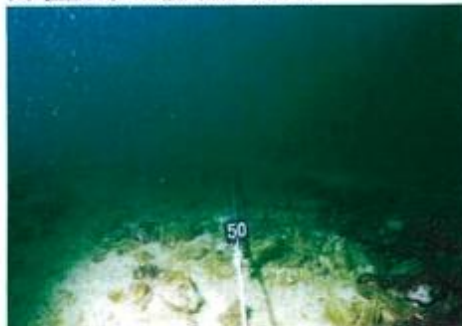
(6)【測線3-2】 30m地点付近 (ヒジキ)の集積状況



(7)【測線3-2】 40m地点 (5.1m 大藻、砂)



(8)【測線3-2】 50m地点 (6.9m 大藻、砂)



記録写真-3 1 測線3-2-(1)

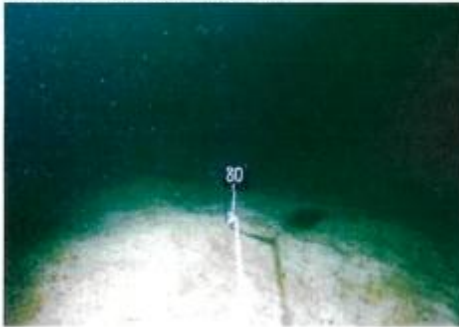
(1) 【測線 3-2】 60m地点 (8.4m 砂、小障)



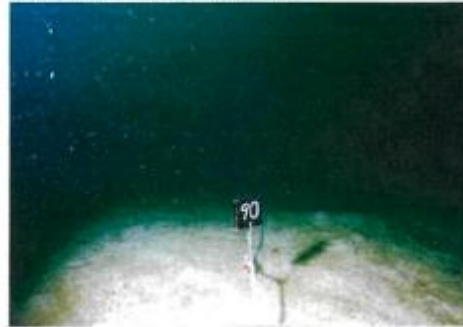
(2) 【測線 3-2】 70m地点 (9.7m 大障、砂)



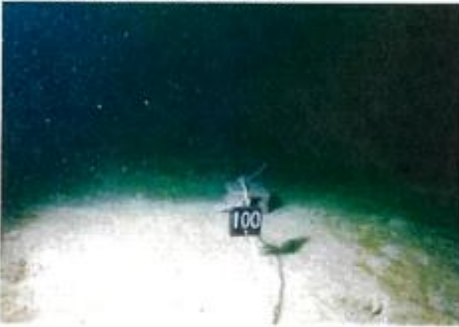
(3) 【測線 3-2】 80m地点 (10.4m 砂)



(4) 【測線 3-2】 90m地点 (11.0m 砂)



(5) 【測線 3-2】 100m地点 (11.5m 砂)



(6) 【測線 3-2】 (イサ)



(7) 【測線 3-2】 (7a12)



(8) 【測線 3-2】 (採取写真 海藻 2ヶ所 動物、有用 1ヶ所)



記録写真-3 2 測線 3-2-(2)

【資料②】 (2015～2023 年) 上五島・大串崎地先 潜水駆除写真

2015 年から 2023 年の 9 年間の写真記録である。

2015 年から 2019 年までは、緑藻類のイワヅタ類、褐藻類のフクロノリ、カギケノリ等、紅藻類のトサカノリが見られ、ウニ類やガンガゼ、ラッパウニも多く生息していた。

2020 年からは、褐藻類のアミジグサ、カギケノリの繁茂が急激に見られるようになり、2023 年もアミジグサを主とする小型褐藻類の繁茂が続いている状況である。

上五島・大串崎地先 潜水駆除2015.7.14



上五島・大串崎地先 潜水駆除2016.6.17



上五島・大串崎地先 潜水駆除2017.6.14



上五島・大串崎地先 潜水駆除2018.6.11



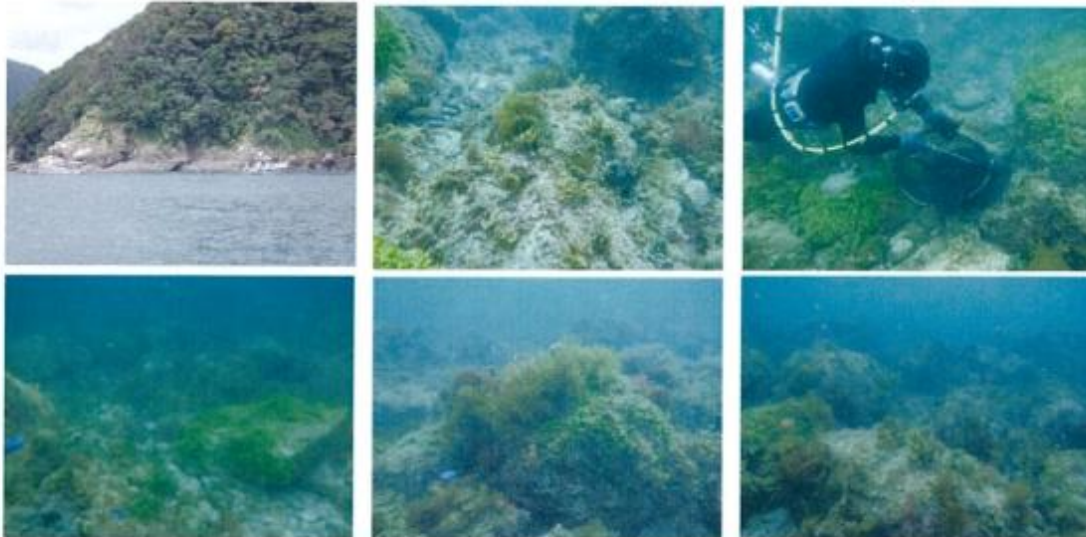
上五島・大串崎地先 潜水駆除2019.6.18



上五島・大串崎地先 潜水駆除2020.6.8



上五島・大串崎地先 潜水駆除2021.7.5



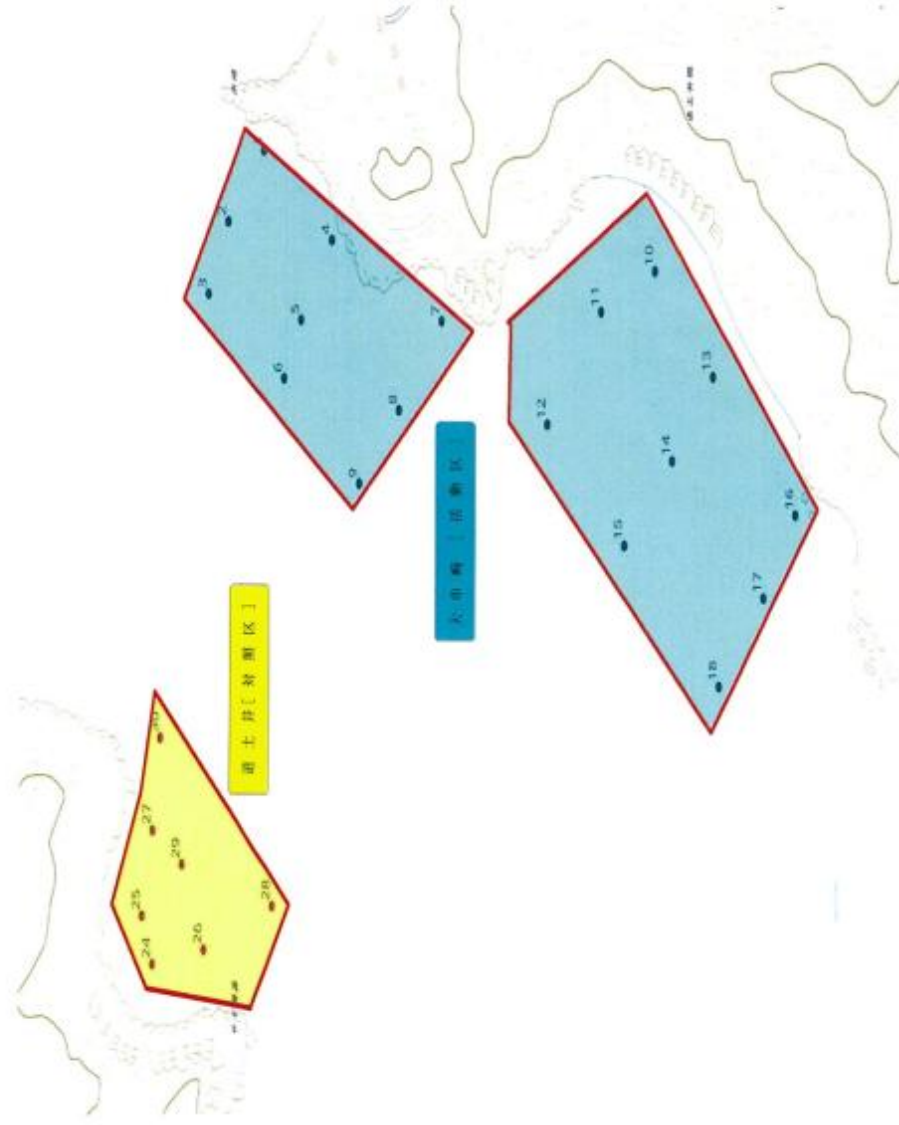
上五島・大串崎地先 潜水駆除2022.7.7



上五島・大串崎地先 潜水駆除2023.7.6



資料③ 「大串崎地区(活動区)の対照区である道土井[増殖礁予定地]の海底の状況」



「大串崎(活動区)と道土井(対照区)の位置図」(定点はコードラードの調査点)

対照区である道土井 [増殖礁予定地] では、植生探査ソナーMX による探査の結果、全域で被覆度はゼロに近い状態が確認出来る。（下記画像参照）

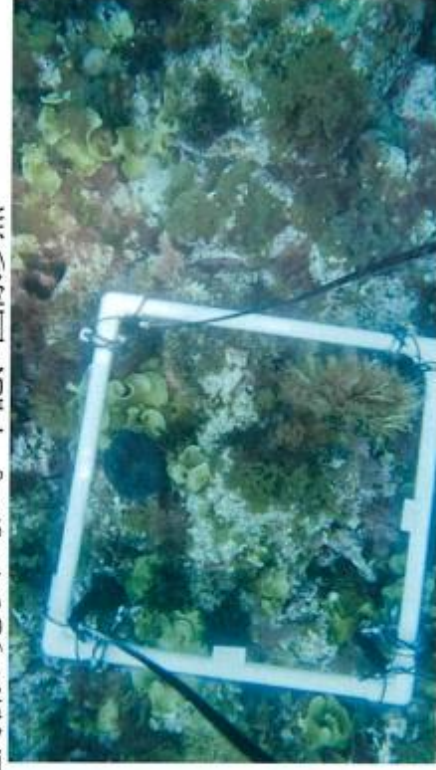
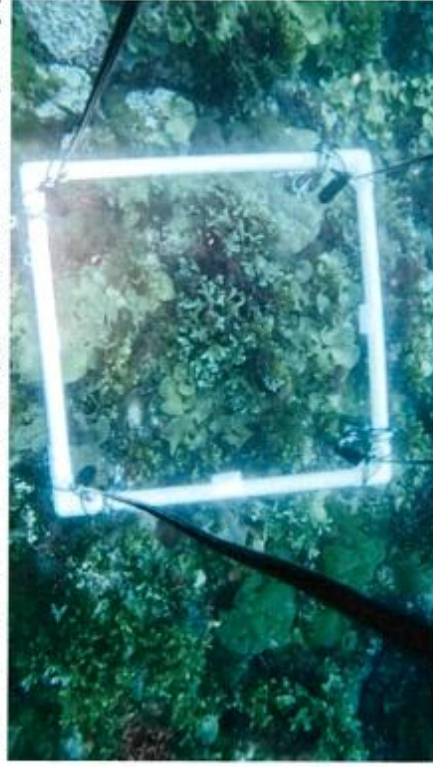


道土井 [増殖礁予定地] における MX 探査の軌跡と被覆率のマッピング (令和7年6月10日)

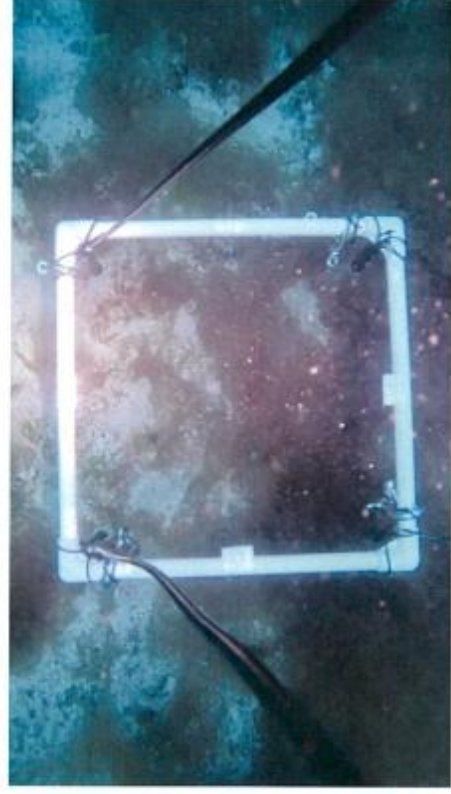


道土井 [増殖礁予定地] における MX 探査の結果 [被覆率についてメッシュ化したマップ (令和7年6月10日)]

活動区の大串崎では、複種類の小型海藻の繁茂が見られるが、食害生物の駆除活動を行っていない、対照区の道土井地区では、わずかにフクロノリ類が生えているのみで小型海藻が見られない。下記、画像参照



[大串崎(活動区)の海底のようす]令和7年6月10日撮影



[道土井(対照区)の海底のようす]令和7年6月10日撮影